

広告

宇部興産中央病院医療最前線  
―シリーズ患者さんに寄り添う専門医療(20)―



改善する歩行障害、認知症、尿失禁

# 特発性正常圧水頭症



脳神経外科  
医長  
島袋 太一

「よく躓(つまず)くのは膝が悪いからだと思っていました。でも、これのせいだったのですね」。先日シャント術を行った患者さんが、退院後初めての外来でこんなことをおっしゃいました。「この何年か躓くことが多かったようですが、元々膝も悪いし年齢のせいだろうと、気にもしていなかったようです。ある日たまたま頭のCTを撮ることがあって、そこで初めて“特発性正常圧水頭症”の疑いと言われ、こちらの外来に来られました。後日手術を受けることで躓くことが減ったと大変喜んでいただきました。

特発性正常圧水頭症という病気は、このように治療すれば良くなるケースが多い一方で、広く知られていないこともあり、診断が遅くなることもしばしば見られます。今回は、早期発見、早期治療につながるように、この病気について少しお話ししたいと思います。

人間の脳みそは、髄液という水の中に浮かんでいます。髄液は脳で作られて、脳で吸収されます。年齢を重ねると、髄液の産生と吸収のバランスが悪くなり、髄液の量が多くなります。頭蓋骨の中は限られたスペースなので、髄液が増えた分、脳みそがその水圧で押されることとなります。これによって歩行障害、認知症、脳失禁といった症状が出てくる、これが特発性正常圧水頭症です。70歳以降の方に多く見られる病気で、最近の調査では高齢者の1・1%（約37万人）程度の患者さんがいるといわれています。

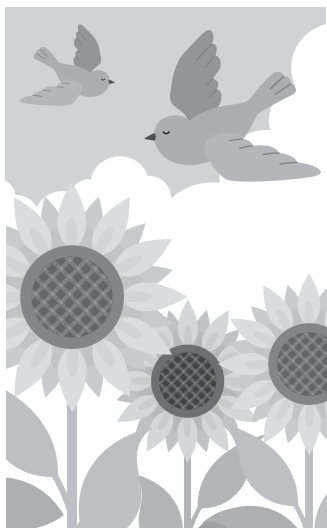
具体的な症状についてお話しします。初期症状は、長距離歩行ができない、早く歩けない、足取

りが重い、ふらつく、尿意が近くなる、といった自覚的なものです。次第に、小刻み歩行、すり足歩行、つかまり歩行になり、時々失禁、転倒するようになります。そして、歩きにくさ、失禁のため外出を避けるようになります。

この頃から記憶障害が始まることが多いようです。具体的には、伝言を忘れる、同じことを何度も尋ねる、注意散漫となる、ぼんやりしてご飯を食べない、といった症状です。症状がゆっくり進行するため、本人も周囲の方もなかなか気付くことができません。また、その他の認知症を合併するケースも多く、このことも、診断が遅くなる一因となっています。

治療は、頭の中の髄液をお腹の中に逃がしてあげる道をつくる、という手術になります。シャント術と言われています。手術で最も改善が期待されるのは歩行障害です。その他の認知症を合併している場合など、認知症症状の改善をあまり認めないこともあります。ですが、それでも以前より活気や自発性が出た、などのご意見をいただくことが多いです。

特発性正常圧水頭症は、外来でのCTである程度スクリーニングを行うことができます。思い当たる症状があればぜひ宇部興産中央病院脳神経外科にご連絡ください。お待ちしております。



宇部興産中央病院は**地域医療支援病院**です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421

専門分野 ●脳神経外科一般

得意とする診療内容 ●脳神経外科一般